

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立嘉瀬小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和5年4月18日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数)

- | |
|---|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。 |
| ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。 |
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

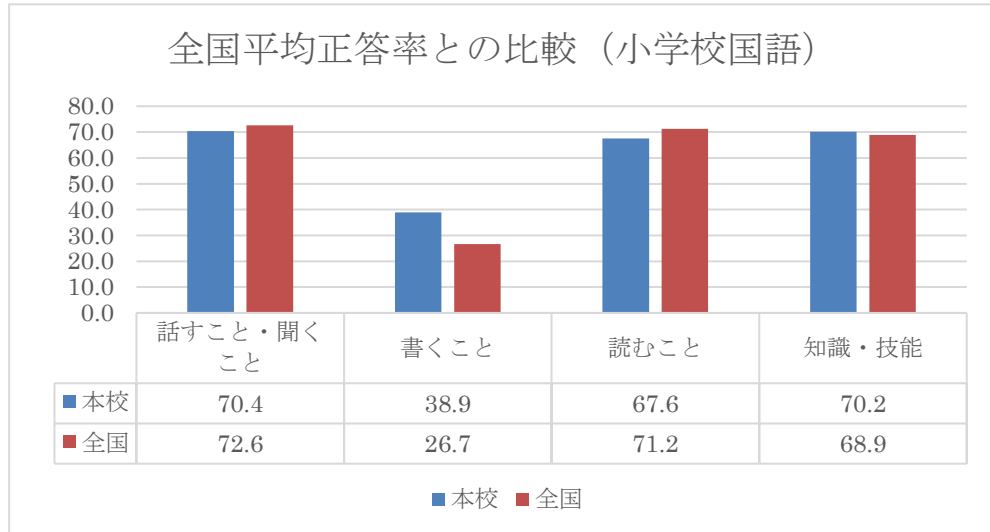
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語(中学校)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

全体的にはほぼ全国平均と同等の結果でした。「書くこと」「知識・技能」は、全国平均正答率を上回っていますが、「話すこと・聞くこと」「読むこと」に課題がありました。無解答率をみると、「書くこと」における問題形式の「記述式」で全国平均よりも高い傾向にありました。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「書くこと」が12.2ポイント上回りました。自分の考えが伝わるように工夫したり、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめたりして記述する力がついていると言えます。また、「知識・技能」が1.3ポイント上回りました。これは、国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段から、漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。

課題は、「読むこと」の正答率を上げることです。目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなど、必要な情報を見付けることを苦手に行っている傾向があります。単なる「知識」を問うのではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

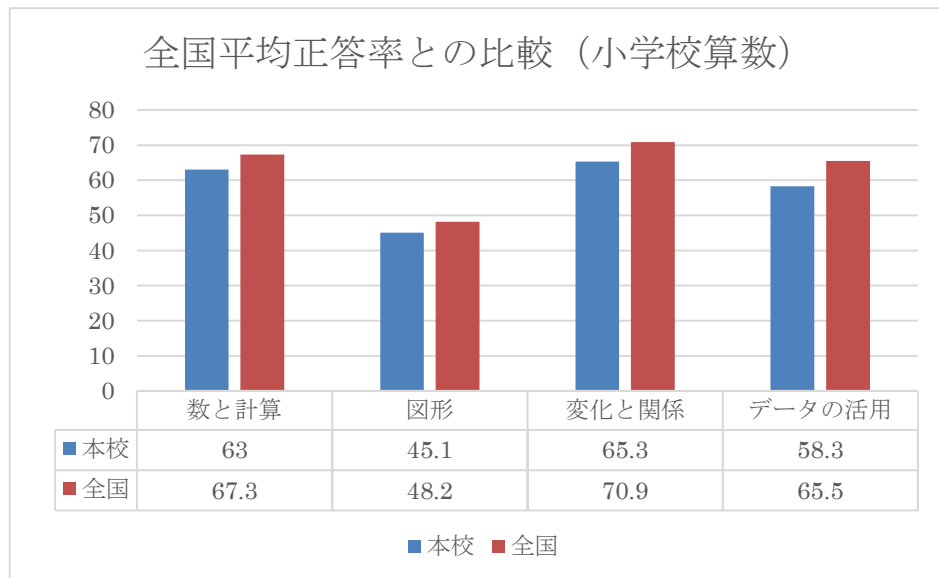
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるような学習課題を示して、この学習では、どのような力をのばすのかを子どもと共有します。加えて、授業の進め方を工夫することで、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいくことができるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やします。
- 長文を読む力を向上させるために、叙述に沿って人物像や場面を想像させながら、全体像をつかむ学習に取り組みます。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成や言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 国語の力は、一朝一夕に身につくものではありません。日常的に、継続的に、楽しみながら取り組むことが大切です。話題を作って家庭での会話を豊かにしたり、音読を聞いて一言感想を伝えたりすることが児童の意欲にもつながります。また、読書を大切に、文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。

2 算数



(1) 結果

ほぼ全国平均と同等の結果でしたが、全ての領域で全国平均をやや下回っています。無解答率を見ると、ほぼ全国平均並でした。後半の問題で高くなる傾向があり、問題を解く時間が不足したことが原因であると考えられます。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「図形」の領域の台形の意味や性質についての小問題の正答率が全国平均を9.6ポイント上回っていました。しかしながら、同じ「図形」の領域の高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題や「数と計算」の領域の加法と乗法の混合した整数の計算をしたり分配の法則を用いたりすることができるかどうかをみる問題、「データの活用」の領域の表から条件に合う数を読み取る問題の正答率が全国平均を下回っていました。

今後、日々の授業で、基礎的な知識と計算力を定着させると共に、説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、児童の表現力を高めさせることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 式から答えを出すだけではなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、引き続き、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを式や言葉を使って論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまずきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数が好きになるには、「習ったことが生活の中で使えて便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。例えば、買い物のときに、見積もりや割合を考えさせたり、料理で重さやかさを計測したりするなど、身の回りの物の形や角度など、ちょっと意識するだけで身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童(生徒)の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	92.3%	83.7%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	38.5%	38.1%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	53.8%	55.1%
自分にはよいところがあると思いますか。	46.2%	42.6%
将来の夢や目標を持っていますか。	53.8%	60.8%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	79.5%	75.3%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	82.1%	82.6%

朝食の喫食率は全国平均よりも大きく上回っています。起床・就寝についてはほぼ全国平均でしたが、数値的にはまだまだ習慣化に向けた手立てが必要だと考えられます。日々の生活リズムを見直す機会と捉え、指導をしていきます。また将来の夢や目標を持つことについては全国平均を下回っていますが、「人の役に立つ人間になりたい」という意識は高いので、そこを将来の夢や目標に繋げていきたいと思います。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	30.8%	28.7%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	15.4%	11.8%
「2時間以上、3時間より少ない」	12.8%	13.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	25.6%	31.5%
「30分以上、1時間より少ない」	23.1%	26.9%
「30分より少ない」	17.9%	11.4%
「全くしない」	5.1%	4.6%

家庭学習については全国平均とほぼ同等ですが、まだ1時間未満の児童が約5割おり、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の目的を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 計画的に学習することは全国平均ではありますが、十分とは言い切れません。中学校への進学を見据えて、高学年では自分で計画を立てて学習に取り組めるような宿題の出し方を工夫していきます。
- 将来の夢や目標を持つことは、生活のモチベーションにつながります。そこで、さまざまな体験をする活動や地域の方々との交流を通して、自己の将来を考えさせる機会にしていきます。

【ご家庭では】

- 家庭訪問で配布した「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすを参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。
- 社会体育や習い事、地域行事など、いろいろな世代の方と触れ合うことで多様な視点で物事を考える力がつきます。そして、そこで関わった身近な大人の姿が、将来の夢や希望となります。ぜひ、たくさんの体験活動に参加されてください。